

懸岸ニ波浪ノ激衝セル時ノ實例ニ就テ

(第六卷第四號所載)

會員 工學博士 廣 井 勇

會誌第六卷第四號ニ於ケル石川博士ノ波浪ニ關スル所說ハ海工學上頗ル有益ナルモノトス蓋シ波力ニヨル災害ニ就テハ由來聞ク所少ナカラスト雖モ觀測ノ困難ナルカ爲メ當時現場ノ狀況ヲ詳ニセル極テ尠ナク學理上基件トナスニ足ルモノ稀ナリ

海瀨島ノ立標ニ於ケル被害ニ就テハ當時ノ風向風速共ニ詳ナラスト雖モ單ニ地勢上ヨリ考フルモ有リ得ヘカラサルコトニ非ス佛國ニ於テハ全ク開放セル地ニ於ケル此種ノ塔ハ經驗上外徑ヲ五米以上トナスハ其當ヲ得タルモノ、如シ水ノ子島燈台ニ於ケル二回ノ被害ハ該地開放ノ度ヨリ考察スルトキハ殆ント豫想シ能ハサル程度ノモノニシテ著者ノ言ノ如ク波動ハ強烈ナル潮流アル處ニハ單ニ風力ノミニ據ラサルコトヲ明示スルモノニシテ大ニ參考ニ資スヘキモノナリ神子元島燈台ニ於ケル被害ハ當時ノ風向詳カナラスト雖モ地勢上甚シク怪シムニ足ラス著者ハ觀測及計算ニヨリ水柱ノ高ヲ波高ノ三倍トナセルハ新說ニシテ其果シテ他ノ場合ニ於テモ應用シ得ヘキヤハ尙ホ調査ヲ要スル事ナルヘク凡ソ水柱ノ生スルハ波浪ノ全勢ノ化シテ位勢トナルニアルモノナレハ其容積ヲ知ルヲ得ハ算出難カラス幾多ノ場合ニ於テ寫眞ノ如キ方法ニヨリ水柱ノ形狀ヲ知ルコトヲ得ハ大ニ得ル處アルヘシ要ルスニ波浪ノ動作ニ關スル吾人ノ知識ハ本說ノ如キ幾多ノ實例ニ基クニ非レハ進歩セサルモノナレハ今後益々新事實ノ發表アランコトヲ著者ニ希望シテ止サルモノナリ (完)